福島縣下磐梯山噴火の大概を記すに明治二十一年
七月十五日午前七時俄かに山鳴震動して一時に破裂
し近傍村々の家屋微塵に飛散り又ハ埋まり人民
死亡せし者數百人僅かに免れさるものハ皆父母妻子

版元 大阪 錦沢堂

岐阜縣
岐阜
福島縣下磐梯山噴火の大槪を記すに明治二十一年
七月十五日午前七時俄に山鳴震動して一時に破裂
し近傍村々の家屋微塵に飛散り又ハ埋まり人民
死亡せし者數百人僅に免れたるものハ皆父母妻子
兄弟を失ひ其屍を掘索むる有様ハ實に見
に忍びず又川上温泉ハ數丈の下に埋め
られ却て小山を現出しより同地の家屋
住民ハ勿論浴客五六十人ハ影もなく
其他埋りし者を掘出せしも身体黒色にて
帯或ハ頭部なきあり又ハ四肢なきもあり故
に男女の別を知りがたる程なり嬰児の首へ
樹の上に掛り腰より下を土に埋められ上半身の
行衛を知らざる如き負傷人の中にも頭を半分
失なひ面部の皮肉を取れ実に見も厭ふべき有様なり
又長瀬川ハ二里余も埋まりされバ其水流れ来て流さるゝなど
浮説に迷ひ東西に逃げ走る警察官ハ近傍の巡査を召集
し非常に尽力せられ実に其混雑宛も戦地に等しく災害地
ハ山となり川と変じ実況ハ言語に尽し難し辱なくも
宮内省より三千円を下賜り難有ことなり江湖の慈善
者よりも夫々恵まるゝもあることなり